

第 25 期・第 2 回 土木工学・建築学委員会 感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方
分科会 議事要旨

開催日時 2021 年 5月31日（月） 10:00-12:15

開催場所 遠隔会議（主催会場：東京工業大学）

出席者 赤松佳珠子，伊香賀俊治，伊藤香織，大岡龍三，小野悠，斎尾直子，齊藤大樹，佐々木葉，定行まり子，高橋良和，竹内徹，竹脇出，田村和夫，前川宏一，増田聡，南一誠，緑川光正，三輪律江，望月常好，山本佳世子，渡邊朗子（上記委員）
矢作弘（参考人）

欠席者 なし

配付資料

1-1 第 1 回分科会議事要旨

1-2 竹脇委員発表資料：SWG1 報告

1-3 伊香賀委員発表資料：SWG3 報告

1-4 山本委員発表資料：SWG4 報告

1-5 高橋委員発表資料：SWG6 報告

1-6 矢作先生発表資料：ポストコロナの都市の「かたち」

議題等

(1) サブ WG の検討状況報告

- ・ トピック 1（総括・国際）／感染症が日本と世界に与えた影響：竹脇委員
 - ✓ 東京都における人口密度と感染率について／諸外国の財政をめぐる動きについて／COVID-19 対策の今後の見通し／オフィス・キャンパス計画事例／複数セクターによるサプライチェーン／米国の建設分野におけるアンケート事例
 - ✓ 他国研究者へのアンケート案
- ・ トピック 2（建築）：斎尾委員／トピック 5（地域）：伊藤委員
 - ✓ 前回と同様，トピック 2 と 5 は一体的に進めている。本日の矢作先生の講演も共同提案。
 - ✓ 個別に行われている情報を収集中。
- ・ トピック 3（環境）／地球に優しいこれからの社会，産業，交通：伊香賀委員
 - ✓ 学校におけるカーボンニュートラルに注目。
 - ✓ 意見：オンライン授業化による CO2 削減の情報はあるか？
- ・ トピック 4（情報）／情報技術(IT, AI)の利用，整備：山本委員
 - ✓ 第 1 回 4/9，第 2 回 5/10 に意見交換を開催。
 - ✓ 情報グループで取り扱うトピックを整理。空間について，リモートワークなどに

おける実空間と仮想空間の棲み分けや関係（建築・都市・文化レベル）。データについて、民間データ（個人移動履歴データなど）を公共データとして管理する仕組みがない。

- ✓ 講師の提案（大西隆・目黒公郎）
- ✓ 意見：日本の情報管理のあり方について議論していただきたい。
 - ・ 講演を踏まえて議論。
- ・ トピック 6（防災）／感染症下の防災・避難・復興：高橋委員
 - ✓ 前回分科会提出資料の更新
 - ✓ 意見：情報の管理について。デジタル庁を設置しようとしているが、防災との関わりは？米国 FEMA が個人情報をもどのように利用しているかが参考になるのでは。コロナはもはや災害と見なせると考えられるが、FEMA はコロナに対してどう行動したのか？

(2) 矢作先生（龍谷大学研究フェロー）による講演

- ・ 題目：ポストコロナの都市の「かたち」：NYにおける状況分析を中心に；
 - ✓ 高密度はパンデミックの温床か？データからは高密度であることは即、高感染率ではない。平方キロの密度ではなく、平方メートルの密度の方が重要。低所得者地域→エッセンシャルワーカー居住地域で感染率が高い。
 - ✓ 公共交通主犯説が一時展開されたが、その後否定的な見解が相次ぐ。
 - ✓ コロナ禍はリモートワークの追い風にはなるが突風にはならない可能性も。
 - ✓ 今後の勤務スタイルは①立身出世願望派②仕事と家庭のバランス派③プライベートライフ重視派に分かれると思われる。マンハッタンを脱出したのは殆どが白人裕福層であった。
 - ✓ ポストコロナのスーパースター都市の「かたち」。都市は新陳代謝を繰り返す。
 - ✓ パンデミック（災害）は忘れてはならない。都市のハードの「かたち」に記憶を残した災害の事例。
 - ✓ 急性の危機か、慢性の危機かで、都市の変容形態は変わる。
- ・ 討議
 - ✓ ニューヨークのような大都市では、コロナ禍で家賃も下がり、居住者や新しい形態のビジネスが戻ってくると思われる。
 - ✓ コロナ禍で郊外に出た人も、子育てが終わると都心に戻ってくる可能性が高いのでは。ライフスタイルと関係。選択肢が広がったのは確か。

(3) その他

- ・ 次回分科会での話題提供は齋尾委員が担当する。
- ・ 次回は 2021 年 8 月 3 日（火）10:00～12:00、オンラインで開催。

以上